

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

梅雨という言葉を聞く度に、体がなぜかだるいと感じてしまうが、今日は「ドレミの日」イタリアの修道士がドレミの音階の原型

を作った日だ。心にともしも楽しい音を抱きたいものだ。全国から色艶やかなアジサイがうなすくように揺れる映像が伝わってくる。坂村真民さんの詩に「まゝるくまゝく 形のよいものに なるうとする やさしい心の あじさいの花」、「深海の真珠のように ひとりひそやかに 自分を作った ゆこう」と表現している。「まるいもの」への憧れなのか、ウクライナの惨状が日々伝わる中、穏やかな平和がいち早く訪れてほしい。

開帳」が29日に結願大法要、30日に前立本尊御遷座式で終わりを告げる。毎年1月7日、15日に善光寺の宝印を額に押された者は極楽往生が約束されると信じられる御印文頂戴は御開帳期間中に毎日頂戴できたため参拝者でにぎわったとの情報だ。親からは「御朱印は極楽浄土の仏様に持っていく三途の川の切符」と教わったが、本来の御朱印は、写経をお寺に納めた証明書、これを機会に多くの方が功德を積んでほしいものだ。

この時季、シヨギングやウオーキング・サイクリングを楽しむ人達を見かける。住んでいる地域の自然の豊かさを日々感じているからこそ、訪れる皆さんがどの様に自然と向き合っているか気になる。

「旅の民俗学」の著者の宮本常一さんは道草の魅力を語る。まずは地図を持たずに集落の頂きに登る。のんびりと見渡せば、もう道には迷わない。そして道端の草花を指さして「これ何という花でしようか。」「食べられるのでしょうか、毒なんでしょうか」と。せわしい日々と情報化社会でのストレスを感じる人達にとって、今求められている地域の姿は、住民一人一人が、

心にいつも楽しい音を抱きたいものだ

道草談議が語られる案内役になる事なのかもしれない。社会教育や公民館地域講座が注目されるべきだろう。漁の最盛期を迎えた「カツオの水揚げ」、千葉の勝浦港や銚子港では5月の水揚げ量が4月に比べ35倍に跳ね上がったとの情報だ。



賑わうラフティングに携わるスタッフ。人材定住にも朗報だ

地球物理学者の島村英紀さんは「異例な豊漁が続いた後に、大地震が発生するケースは少なくない」と指摘している。梅雨明け間近に

は災害多発の事例も多い、災害には日々備えたいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)